

所属・氏名（ 薬学部 薬学科 氏名：瀧野 純一 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Intracellular Toxic AGEs (TAGE) Triggers Numerous Types of Cell Damage	共著	2021 年 3 月	Biomolecules 11, 387	生活習慣病の発症/進展に関与している大量の糖の習慣的な摂取は、様々な細胞において糖代謝の中間体であるグリセルアルデヒド（GA）の過剰産生を誘発する。GAは細胞内タンパク質との反応により、毒性AGEs（TAGE）を生成し、その蓄積がアルツハイマー病、非アルコール性脂肪性肝炎、心血管疾患などのさまざまな疾患の原因となる。本総説では、細胞内TAGEレベルと様々な細胞の細胞障害との関係について概説する。19頁 Masayoshi Takeuchi, Akiko Sakasai-Sakai, Takanobu Takata, <u>Jun-ichi Takino</u> , Yoshiki Koriyama, Chigusa Kikuchi, Ayako Furukawa, Kentaro Nagamine, Takamitsu Hori, Tamihide Matsunaga 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2 (学術論文) RasGRP2 inhibits glyceraldehyde-derived toxic advanced glycation end-products from inducing permeability in vascular endothelial cells 筆頭論文	共著	2021 年 2 月	Sci. Rep. 11, 2959	グリセルアルデヒド由来の毒性 AGEs（TAGE）が、ROS および非 ROS 経路などの複雑なシグナル伝達を介して接着結合および密着結合を破壊することにより、血管透過性を亢進させることを明らかにした。さらに血管内皮細胞で発現する RasGRP2 が、接着結合の破壊を保護することで、TAGE による血管透過性亢進を抑制することを明らかにした。10 頁 <u>Jun-ichi Takino</u> , Takuma Sato, Takumi Kanetaka, Kasumi Okihara, Kentaro Nagamine, Masayoshi Takeuchi, Takamitsu Hori 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3 (学術論文) Alterations in Glucose Metabolism Due to Decreased Expression of Heterogeneous Nuclear Ribonucleoprotein M in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma 筆頭論文	共著	2021 年 1 月	Biology 10, 57	膵臓組織で高発現している HNRNPM の発現が、その癌組織で減少していることを明らかにした。さらに、低血管環境を模倣する低グルコース条件下での HNRNPM のノックダウンは、膵臓癌細胞株 MIA PaCa-2 細胞のグルコース代謝を変化させ、グルコース消費を抑制することによって細胞の生存を延長することを明らかにした。11 頁 <u>Jun-ichi Takino</u> , Takuma Sato, Isamu Hiraishi, Kentaro Nagamine, Takamitsu Hori 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4 (学術論文) Suppression of Hepatic Stellate Cell Death by Toxic Advanced Glycation End-Products 筆頭論文	共著	2021 年 1 月	Biol. Pharm. Bull. 44, 112–117	グリセルアルデヒド由来の毒性 AGEs（TAGE）がTGF-β1で活性化された肝星細胞由来LX-2細胞の細胞死を抑制することで、線維化に関わるコラーゲンIなどの細胞外マトリックスの産生を増加させることを明らかにした。6頁 <u>Jun-ichi Takino</u> , Takuma Sato, Kentaro Nagamine, Akiko Sakasai-Sakai, Masayoshi Takeuchi, Takamitsu Hori 共同研究につき本人担当部分抽出不可能